

頌 栄

No. 106

日本キリスト教団 頌栄教会

〒155-0031

世田谷区北沢 1-42-10

Tel 03-3467-3664

Fax 03-3467-8332



「愛し合い、仕え合う教会」であるために

牧師 清弘 剛生

賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。

1 コリント 12・4～6

私たちはいろいろな賜物を与えられています。いろいろな務めを与えられています。そのように私たちの側は「いろいろ」です。しかし、それはあくまでも「同じ神」に共に仕えるための「いろいろ」なので。ならばそれは互いに補い合うための「いろいろ」なのであり、私たちは補い合うとい

う意味において互いに仕え合いながら、同じ神に仕え、この世に仕える者とされているのです。それをパウロは「皆一つの体となるために洗礼を受け」（13節）と表現しています。なるほど、「体」を考えるならよくわかります。いろいろな各部分が補い合いながら共に仕えているのが体というものですから。教会とはそのような「キリストの体」であると聖書は教えているのです。

さて、今年の年度主題は、「愛し合い、仕え合う教会」です。それは少なくとも、単にお互いが親しくて仲の良い教会ということではなさそうです。ここではどうということなのか。こ

れらの聖書箇所から、少なくとも一つの大切なことが見えてきます。

それは一人ひとりが《自分自身を生きている》ということです。他と比較して高ぶるでもなく、卑下するでもなく、手は手として、足は足として、自分自身を生きている。誰かに仕える者として、互いに補い合う者として、自分自身を生きている。それは自分の仕え方を知っているということであり、そして、何を補ってもらわなくてはならないかを知っているということでもあるのでしよう。それゆえに喜んで他者を補い、そして喜んで補ってもらおう。そのような一人ひとりの在り方と互いの関係性が、「愛し合い、仕え合う教会」であるためには不可欠であるように思います。

(復活節第四主日礼拝説教より)